神奈川県海老名市

国分宿遺跡発掘調査報告書

－第25次調査－

2020

海老名市教育委員会

例　言

1．本書は、神奈川県海老名市国分南一丁目1959-4に所在する国分宿遺跡（海老名市№１遺跡）第25次調査の埋蔵文化財発掘調査報告書である。

2．発掘調査は、個人住宅兼店舗の建設に伴う事前の記録保存調査として、海老名市教育委員会が実施した。

3．発掘作業から報告書刊行までの期間及び出土品等整理作業場所は次のとおりである。

発掘作業期間	平成26年７月16日～平成26年７月30日
出土品等整理作業期間	平成26年12月16日～平成26年12月17日、 平成31年２月１日～令和元年10月31日
報告書刊行期間	令和元年11月１日～令和２年３月19日
出土品等整理作業場所	海老名市教育員会事務室 （神奈川県海老名市中新田377） 株式会社アーク・フィールドワークシステム （神奈川県横浜市二俣川１-２-１-205）

4．発掘作業は押方みはる（海老名市教育委員会教育総務課）が担当した。

5．整理作業のうち、出土品の整理及び実測、遺物写真撮影は株式会社アーク・フィールドワークシステムに委託し、図面整理、デジタルトレースは市川由希子（海老名市教育委員会教育総務課）が行った。

6．土器に付いた圧痕については、明治大学黒耀石研究センター佐々木由香氏、株式会社パレオ・ラボ山本華氏に依頼し、レプリカ法による分析を行った。結果は第４章に掲載した。

7．発掘調査及び整理調査に際し、次の諸氏、諸機関よりご協力、ご教示賜った。（順不同、敬称略）
佐々木由香、山本華、鰐持晴敏、鰐持恵一、株式会社アーク・フィールドワークシステム、神奈川県教育委員会文化遺産課

8．本書の執筆は、押方、今野まりこ、和田山千暁（海老名市教育委員会教育総務課）が以下のとおり分担し、全体の編集は押方と今野が行った。
押方　第１章、第２章第１節、第３章、第５章
押方・和田山　第２章第２節
今野　第３章第３節中の出土遺物部分

9．現地調査の写真撮影は、押方が行った。

10．本発掘調査に係る出土品及び図面、写真等の記録類は一括して海老名市教育委員会で保管している。

11．本発掘調査に係る出土品の注記については、遺跡名の略号を「宿25」とした。

12．遺物観察表中の出土位置は、現場での取り上げ時に用いた出土位置情報であり、№は報告書の図番号とは異なる。

13．遺構・遺物に係る挿図中の指示は、次のとおりである。

・遺構（調査区）実測図の方位は真北を示し、水糸高は海抜高度を指す。

・土層観察の色調は『新版標準土色帖』2001年版農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修に準拠している。

・挿図の縮尺は各図に示す。

・遺構・遺物挿図のパターンによる指示は以下に示す。

目　次

第１章　調査の経過 …… 1
　第１節　調査に至る経緯と経過 …… 1
　第２節　調査等体制 …… 2

第２章　遺跡概観 …… 2
　第１節　地理的環境 …… 2
　第２節　歴史的環境 …… 2

第３章　調査の方法と成果 …… 8
　第１節　調査の方法 …… 8
　（１）試掘調査 …… 8
　（２）本格調査 …… 8
　（３）出土品整理 …… 8
　第２節　基本層序 …… 11
　第３節　発見された遺構と遺物 …… 11
　（１）古代～中世 …… 11
　（２）古墳時代 …… 11
　（３）縄文時代 …… 18
　（４）遺構外出土遺物 …… 21

第４章　自然科学分析 …… 23
　レプリカ法による土器種実圧痕の検討 …… 23

第５章　まとめ …… 25

引用・参考文献 …… 26

挿図目次

第１図　周辺地形分類図及び遺跡位置図 …… 4
第２図　周辺の主要な遺跡 …… 5
第３図　国分寺・相模国分寺関連遺跡調査履歴図 …… 7
第４図　試掘坑及び本格調査区配置図 …… 9
第５図　基本土層 …… 9
第６図　中世～古墳時代遺構全体図 …… 10
第７図　縄文時代遺構全体図 …… 10
第８図　１号溝状遺構 …… 12
第９図　１号溝状遺構出土遺物 …… 13
第10図　１号・２号竪穴建物跡、１号土坑、１号ピット …… 14
第11図　１号・２号竪穴建物跡内ピット断面図 …… 15
第12図　１号竪穴建物跡出土遺物 …… 17
第13図　２号竪穴建物跡出土遺物 …… 18
第14図　１号土坑、１号ピット断面図 …… 18
第15図　１号集石 …… 20
第16図　１号埋甕 …… 20
第17図　２号土坑 …… 20
第18図　１号・２号性格不明遺構 …… 20
第19図　縄文時代出土遺物 …… 22
第20図　遺構外出土遺物 …… 22

表 目 次

第１表　調査に係る届出等の経過一覧 …… 1
第２表　国分寺・相模国分寺関連遺跡調査歴一覧　6
第３表　１号溝状遺構出土遺物観察表 …… 13
第４表　１号竪穴建物跡出土遺物観察表 …… 15
第５表　２号竪穴建物跡出土遺物観察表 …… 16
第６表　縄文時代出土遺物観察表 …… 19
第７表　遺構外出土遺物観察表 …… 21
第８表　国分寺遺跡第25次調査出土土器圧痕の同定結果 …… 23

写真図版目次

図版１　１　No.１試掘坑（Ⅰ区）調査前状況（東から）
　　２　Ⅱ区調査前状況（東から）
　　３　Ⅲ区調査前状況（北から）
　　４　Ⅳ区調査前状況（東から）
　　５　Ⅴ区調査前状況（北から）
　　６　１号溝状遺構（Ⅲ区　西から）
　　７　１号溝状遺構（Ⅱ区　東から）
図版２　１　１号竪穴建物跡（Ⅳ区　西から）
　　２　１号竪穴建物跡（Ⅱ区　南から）
　　３　２号竪穴建物跡（Ⅳ区　東から）
　　４　１号竪穴建物跡（Ⅴ区　南から）
　　５　１号・２号竪穴建物跡掘方（Ⅳ区東から）
図版３　１　１号竪穴建物跡掘方（Ⅱ区　南から）
　　２　１号土坑(Ⅱ区　西から）
　　３　１号ピット（Ⅱ区　東から）
　　４　１号埋甕（Ⅱ区　東から）
　　５　１号集石（Ⅱ区　東から）
　　６　２号土坑（Ⅰ区　北から）
　　７　１号・２号性格不明遺構（Ⅴ区　東から）
図版４　１号竪穴建物跡出土遺物
図版５　１　２号竪穴建物跡出土遺物
　　２　１号溝状遺構出土遺物
　　３　遺構外出土遺物
図版６　縄文時代出土遺物

第１章　調査の経過

第１節　調査に至る経緯と経過

平成26年４月、海老名市国分南一丁目1959-4において店舗併用の戸建て住宅の建築が計画され、事業主より海老名市教育委員会(以下、市教委)に「埋蔵文化財試掘調査に関する照会書」が提出された。建築計画では建物基礎の下に地盤改良を予定しており、44本の柱状改良が計画されていた。建築計画は「神奈川県内における開発事業等に伴う埋蔵文化財の取扱基準　別表１(１)」に該当する可能性があることから、事業主に対して事前に試掘調査を要する旨回答をした。その後事業主から市教委への依頼により試掘調査を実施することとなった。平成26年７月16日に建築物予定箇所に２m×２mの試掘坑を２ヶ所設定したところ、古代以前とみられる遺構の覆土及び縄文時代の土坑とみられる覆土が認められた。当該地は相模国分寺跡史跡指定地の隣接地であり、西側回廊の想定位置にあたる地点ではあるが、西側回廊については周辺の調査でも確認されておらず、今回の試掘調査においても確認されなかった。

建築計画の工程の関係上、翌７月17日から工事により埋蔵文化財に影響を及ぼす範囲について本格調査を実施した。敷地が狭く、排土の仮置き場を確保しながら調査を実施したため試掘坑も含め、調査区を５区に分けて実施し、７月30日に調査を終了した。各区の名称はⅠ～Ⅴ区とした。

第１表　調査に係る届出等の経過一覧

文書種別・内容	文書番号	日付	発信者	受信者	備考
1　埋蔵文化財所在有無の照会					
埋蔵文化財試掘調査に関する照会書		平成26年４月22日	事業主	海老名市教育委員会教育長	
同回答	海教総収第48号	平成26年４月28日	海老名市教育委員会教育長	事業主	
2　試掘調査・文化財保護法第99条に基づく発掘調査					
試掘調査依頼		平成26年７月２日	事業主	海老名市教育委員会教育長	
発掘調査承諾		平成26年７月２日	事業主	海老名市教育委員会教育長	
3　文化財保護法第93条に基づく土木工事等の届出					
土木工事等の届出		平成26年７月２日	事業主	神奈川県教育委員会教育長	海老名市教育委員会を経由
土木工事等の届出に対する通知	文遺第6146号	平成26年７月28日	神奈川県教育委員会教育長	事業主	海老名市教育委員会を経由
4　出土品の手続き					
埋蔵物発見届		平成26年９月11日	海老名市教育委員会教育長	海老名警察署長	
出土文化財保管証の提出		平成26年９月11日	海老名市教育委員会教育長	神奈川県教育委員会教育長	
埋蔵物の文化財認定と帰属について	文遺第5102号	平成26年10月２日	神奈川県教育委員会教育長	海老名市教育委員会教育長	
出土文化財の譲与について（申出）	文遺第51号	平成27年４月20日	神奈川県教育委員会教育長	海老名市教育委員会教育長	
出土文化財の譲与について（回答）	海教総収第54号	平成27年５月１日	海老名市教育委員会教育長	神奈川県教育委員会教育長	
出土文化財の譲与について（通知）	文遺第155号	平成27年５月28日	神奈川県教育委員会教育長	海老名市教育委員会教育長	

第２節　調査等体制

発掘調査（平成26年度）

海老名市教育委員会教育長 伊藤文康、教育部長 萩原圭一、教育部次長 植松正、教育総務課長兼特定政策担当課長 金指太一郎、文化財係長 羽倉信昭、主査 押方みはる（担当）、主任主事 向原崇英、主事 小川恭平、臨時職員 市川由希子

出土品整理・報告書作成（平成30・31年度）

海老名市教育委員会教育長 伊藤文康、教育部長 岡田尚子、（平成30年度）、教育部長 伊藤修（平成31年度）、教育部次長 金指太一郎（平成30年度）、教育部次長 小宮洋子（平成30年度）、教育部次長 伊藤修（平成30年度）、教育部次長 萩原明美（平成31年度）、教育部参事兼教育総務課長 中込紀美子、文化財係長 押方みはる、主査 向原崇英、主査・副主幹 今野まりこ、臨時職員 市川由希子、和田山千暁

第２章　遺跡概観

第１節　地理的環境（第１図）

国分宿遺跡は、神奈川県海老名市国分南に所在する。海老名市の北寄りの中央に位置し、相模鉄道、小田急小田原線海老名駅からは東に約500mと至近である。遺跡のある小字名は、宿となっており、矢倉沢往還の宿として栄えた地域である。

本遺跡の所在する海老名市は、神奈川県のほぼ中央に位置し、相模川の左岸に存在する。市域の地形は大きく分けると、西側は相模川の浸食、堆積によって形成された沖積低地、東側は相模野台地、座間丘陵から成り立っている。

当該地は相模野台地西端の段丘上、中津原面にあたる。南北方向に平坦面が広がっており、付近の標高は30～32mを測る。相模野台地中津原面を含む相模野台地上には多くの遺跡が存在しているほか、近年は相模川沿いの自然堤防上周辺でも相模縦貫道関連の埋蔵文化財調査により、濃密な遺跡の分布が確認されている。

第２節　歴史的環境（第２、３図、第２表）

国分宿遺跡は、史跡相模国分寺跡も含め海老名市№１埋蔵文化財包蔵地となっている。平成19年までは№37、53埋蔵文化財包蔵地も含め相模国分寺跡の史跡地外における調査を「相模国分寺関連遺跡」として調査を実施してきた。

国分宿遺跡周辺では、相模国分寺跡史跡地内での史跡整備等に伴う調査を11次調査まで実施、史跡地外での調査については国分寺関連遺跡として調査したものも含め、24次の調査を実施しており、今回の調査が25次となる。過去の調査から、国分宿遺跡では古代相模国分寺に関連する遺構の下層にも縄文時代草創期、前期の遺物遺構や、段丘西側を中心に古墳時代

前期の濃密な集落跡の存在が確認されている。

市域には旧石器時代から近世に至るまで各時代の遺跡が台地、丘陵、相模川河岸の自然堤防上を中心に多く確認されている。ここでは今回の調査で遺構が確認された縄文時代、古墳時代を中心に周辺の遺跡について概観する。

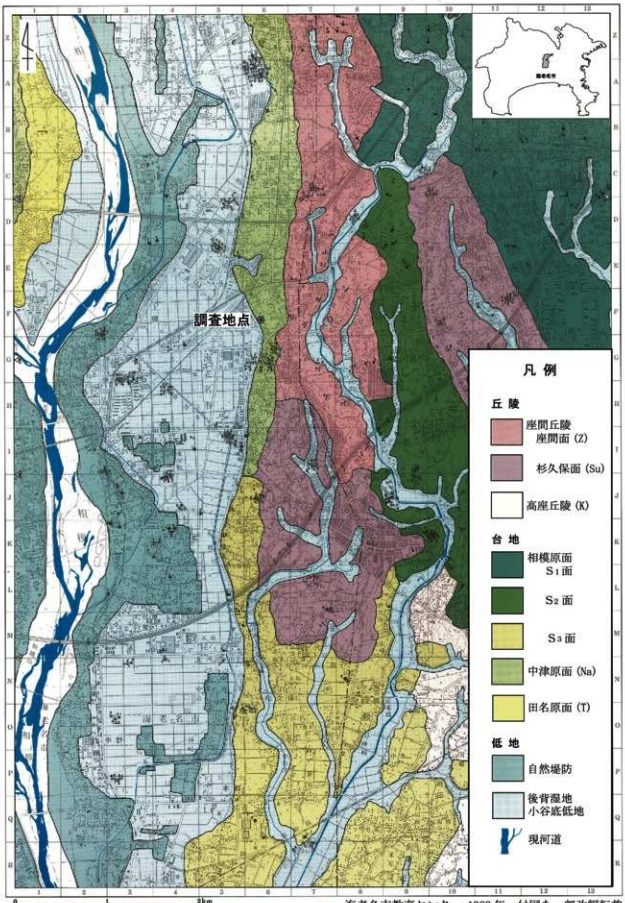
縄文時代の遺跡は台地、丘陵上に点在する。早期のものとしては杉久保蓮谷遺跡（海28）、杉久保東谷遺跡（海85）等で陥し穴や焼礫集石遺構、ファイヤーピットがまとまって発見されたほか、大谷市場遺跡（海80）等でも陥し穴が確認されている。前期では本調査地点の南側、相模国分寺跡史跡地南側隣接地（国分寺関連遺跡0－1次）で竪穴住居跡が確認されているほか、杉久保蓮谷遺跡、大谷市場遺跡で墓坑が確認されている。中期には望地遺跡(海34)、杉久保遺跡(海10)等で拠点的な集落が営まれ、杉久保遺跡の調査では後期まで集落が存続する。後期の遺跡は少ないが、国分南原西遺跡（海54）で敷石住居跡が確認されている。

古墳時代の遺跡分布は台地上と相模川沿いの自然堤防上に見られる。市域北部、相模野台地上の国分尼寺北方遺跡（海35）では、前期、中期の遺構が散漫ながら確認されており、25次調査では、大型の竪穴建物跡１軒が確認されているほか、５、８次調査等で中期の集落が確認されている。本調査地点の周辺では、国分寺関連遺跡第11次調査等で古墳時代前期の竪穴住居跡が複数確認されているほか、相模国分寺跡史跡整備に伴う調査でも、前期、後期の遺構が確認されている。同じ相模野台地上にある内出遺跡（海36）では、弥生時代終末から古墳時代前期の竪穴住居跡が重複して確認されている。

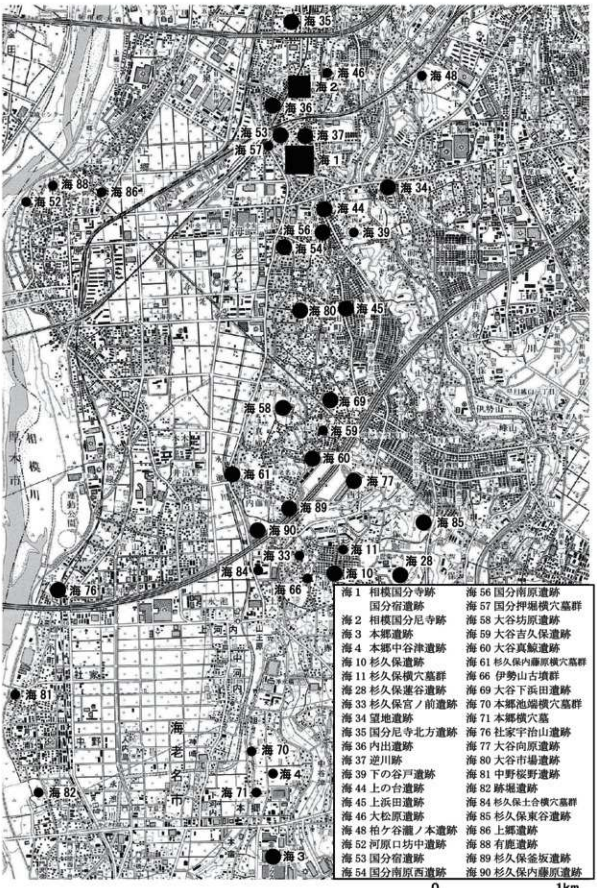
市域南部では相模野台地縁辺部を中心に本郷遺跡（海３）、本郷中谷津遺跡（海４）で古墳時代の集落跡が確認されている。本郷遺跡ではＤＯ地区で古墳時代竪穴住居跡から小銅鐸が発見されているほか、複数の竪穴住居跡から緑色凝灰岩製の玉作り関連遺物が出土しており、玉作り工房跡とみられている。本郷中谷津遺跡６・７次調査でも竪穴住居跡が確認されており、緑色凝灰岩の剥片や管玉未製品など、玉作りに関連する遺物が出土している。台地上では、大谷市場遺跡、上浜田遺跡（海45）、大谷向原遺跡（海77）等で７世紀代になり出現する集落も認められる。

相模川河岸の自然堤防上の遺跡でも弥生時代以降の集落跡等が濃密に分布しており、河原口坊中遺跡（海52）では、１次調査において弥生時代から古墳時代前期の竪穴建物跡292軒、掘立柱建物跡７棟などが検出されており、それらと共に金属製品やガラス玉、他地域の影響がみられる土器類などが出土しており、大規模な集落が存在していたとみられる。社家宇治山遺跡（海76）では弥生時代後期から古墳時代中期の竪穴建物跡が163軒、溝状遺構31条などが発見された。遺跡全体で約17,000点の玉作り関連遺物が出土しており、集落内で玉作りを行っていたと考えられる。また大廓式の壺やＳ字甕などの搬入品が一定量発見されているほか、手焙り型土器の小破片が３点出土している。中野桜野遺跡（海81）でも弥生時代～古墳時代前期の竪穴建物跡62軒などが発見されている。

古墳の分布については、相模川東岸では主に沖積地を望む丘陵上や台地の端部に立地しているが、近年の調査では、自然堤防上にも古墳が存在することが明らかになっている。古墳の築造は前期から認められるが、中期のものは少なく、後期には相模川下流域や上流にも分布域が広がる。



第 1 図　周辺地形分類図及び遺跡位置図



第２図　周辺の主要な遺跡

第２表　国分寺・相模国分寺関連遺跡調査歴一覧

調査次数	調査年度	調査地番	目的	調査機関	内容	遺構等	主な時代	文献
0-1次	S61	国分南一丁目1938番地	共同住宅建設	相模国分寺遺跡調査団	発掘調査	瓦溜り、竪穴建物跡、土坑	縄文、奈良～平安	12, 31
0-2次	S61	国分南一丁目地内	下水道工事	相模国分寺史跡地確認調査団	発掘調査	道路状遺構、竪穴状遺構、竪穴建物跡、溝状遺構	古墳、奈良～平安、中世、近世	27
0-3次	S63	国分南一丁目1942番地先	下水道工事	海老名市教育委員会	試掘調査	なし		13
0-4次	S63	国分南一丁目1890番地1	共同住宅建設	相模国分寺関連発掘調査団	試掘調査	竪穴建物跡、溝状遺構	奈良～平安	28
0-5次	H1	国分南一丁目1879番地	学術調査	相模国分僧寺遺跡寺域範囲確認調査団	確認調査	なし		
0-6次	H2	国分南一丁目1878番地1	学術調査	相模国分僧寺遺跡寺域範囲確認調査団	確認調査	竪穴建物跡		
1次	H1	国分南一丁目1890番地1	共同住宅建設	相模国分寺遺跡調査会	発掘調査	区画溝、竪穴建物跡	古墳、奈良～平安、近世	28
2次	H1	国分南一丁目1861番地先外	下水道工事	相模国分寺遺跡調査会	発掘調査	逆川跡	奈良～平安、近世	28
3次	H3	国分南一丁目1956番地2	個人住宅建設	相模国分寺遺跡調査会	発掘調査	竪穴建物跡、土坑、瓦廃棄坑	縄文、古墳、奈良～平安	27
4次A 4次B 4次C	H3	国分南一丁目13番50号先、8番11号先	下水道工事	相模国分寺遺跡調査会	発掘調査	A：区画溝、竪穴建物跡 B：竪穴建物跡 C：逆川跡、土坑	縄文、古墳、奈良～平安、近代	27
5次	H4	国分南一丁目1937番地	宅地造成	相模国分寺遺跡調査会	発掘調査	なし		20
6次	H5	国分南一丁目1877番地5、1877番地7	下水道工事	相模国分寺遺跡調査会	発掘調査	ピット３	中世、近世	32
7次	H5	国分南一丁目10番5号先～10番11号先	下水道工事	海老名市教育委員会	発掘調査	竪穴建物跡4、ピット1	古墳、平安	21
8次	H6	国分南一丁目1976番11外	共同住宅建設	海老名市遺跡調査会	発掘調査	竪穴建物跡1、掘立柱建物1	平安～中世	22
9次A B	H6	国分南一丁目6番10号先～27号先 国分南一丁目20番41号先～43号先	下水道工事	海老名市遺跡調査会	発掘調査	環濠１、竪穴建物跡３、溝２	縄文～平安	22
10次A B	H6	国分南一丁目10番30号先～33号先 国分南一丁目10番39号先～40号先	下水道工事	海老名市遺跡調査会	発掘調査	竪穴建物跡７、溝１	古墳、奈良～平安	22
11次	H7 H10	国分南一丁目1964番地外	宅地造成	海老名市遺跡調査会	確認調査 発掘調査	竪穴建物跡18、竪穴状遺構1、溝状遺構3	古墳、奈良～平安	23, 26
12次	H7	国分南一丁目1865番地、1867番地、1882番地2	共同住宅建設	海老名市遺跡調査会	発掘調査	逆川関連遺構、竪穴建物跡3、掘立柱建物跡1、土坑3	奈良～平安	24
13次	H8	国分南一丁目1943番地1	個人住宅建設	海老名市教育委員会	発掘調査	なし		25
14次	H12	国分南一丁目1964番地1の一部	個人住宅建設	海老名市遺跡調査会	発掘調査	竪穴建物跡5、溝状遺構1、ピット	古墳、奈良～平安	9
15次	H13	国分南一丁目1964番地5	宅地造成	国分寺関連遺跡第15次発掘調査団	発掘調査	竪穴建物跡2、溝状遺構3	古墳、奈良～平安	30
16次	H13	国分南一丁目1964番地7	宅地造成	国分寺関連遺跡第16次発掘調査団	発掘調査	竪穴建物跡5、溝状遺構1、土坑1	古墳、奈良～平安	30
17次	H14	国分南一丁目1888番地1外	個人住宅建設	海老名市教育委員会	試掘調査	溝状遺構、土坑1、ピット	奈良～平安	
18次	H14	国分南一丁目1964番地6	駐車場整備	海老名市教育委員会	試掘調査	竪穴建物跡4	古墳	
19次	H14	国分南一丁目1980番7、9	個人住宅建設	海老名市教育委員会	試掘調査	なし		
19-2次	H14	国分南一丁目1939番地4	宅地造成	海老名市教育委員会	試掘調査	溝状遺構2、土坑1	奈良～平安	
19-3次	H16	国分南一丁目1963番地5	個人住宅建設	海老名市教育委員会	試掘調査	区画溝	奈良～平安	
20次	H16	国分南一丁目1885番地4外	学術調査	海老名市教育委員会	確認調査	円形周溝墓1、竪穴建物跡1、溝状遺構1、環濠1	弥生、奈良～平安	14
20-2次	H17	国分南一丁目1938番地4、10	個人住宅建設	海老名市教育委員会	試掘調査	区画溝、土坑1	縄文、奈良～平安	
21次	H19	国分南一丁目1888番地6	個人住宅建設	海老名市教育委員会	発掘調査	竪穴建物跡2、溝状遺構1、不明遺構3	平安	15
22次	H22	国分南一丁目1957番1外3筆	その他の建物(旧村役場)移設	海老名市教育委員会	発掘調査	竪穴建物跡ピット	古墳、奈良～平安	
23次	H23	国分南一丁目1870番地5	個人住宅建設	海老名市教育委員会	発掘調査	竪穴建物跡1、溝状遺構3、土坑、ピット	平安	
24次	H24	国分南一丁目1938番14	個人住宅建設	海老名市教育委員会	発掘調査	土坑1、溝状遺構1	縄文～平安	
25次	H26	国分南一丁目1959番地4	個人住宅新店舗建設	海老名市教育委員会	発掘調査	土坑3、埋甕1、集石3、竪穴建物跡1、溝状遺構1、土坑3、ピット1	縄文、古墳～中世	本書

第３図　国分宿・相模国分寺関連遺跡調査履歴図

主な古墳としては、南関東でも最古級の古墳群として知られる国指定史跡の秋葉山古墳群が海老名市域最北部の座間丘陵上にある。前方後円墳３基、前方後方墳１基、方墳１基で構成され、古墳出現期から古墳時代前期の築造であることが判明している。座間丘陵座間面と杉久保面にかかる標高60m前後の丘陵上に位置する上浜田古墳群（海45）は、７号墳（甕棺塚古墳）の前方後円墳を中心に南北に６基の古墳が連なっている。出土した遺物から６（方墳）、７号墳は前期、２、５号墳（円墳）は中期後半の築造とみられる。上浜田古墳群から2.5kmほど南には、伊勢山古墳群（海66）があり、２号墳は後期初頭の古墳とみられる。

自然堤防上では河原口坊中遺跡、社家宇治山遺跡、中野桜野遺跡で弥生時代終末から古墳時代前期の方形周溝墓が群となってみられる。社家宇治山遺跡では、古墳時代中期とみられる円墳も見つかっており、河原口坊中遺跡では後期の円墳群とともに周辺に小石室が造られている。この他、杉久保内藤原横穴墓群など台地と低地の境界の崖線に多くの横穴墓の築造がみられる。

第３章　調査の方法と成果

第１節　調査の方法

（１）試掘調査（第４図）

２m×２mの２ヶ所の試掘坑を設定した。№１試掘坑では、表土を除去しⅣ層及びⅤ層上面で土層精査を行ったが遺構は確認されなかったため、Ⅴ層下層まで掘削を進めたところ、地表から約1.5mで土坑の覆土を確認した。

遺物は土師器２点18.2ｇで、いずれも小破片で、図化できた遺物は無い。

また№２試掘坑では地表から約80cm、Ⅳ層下層からⅤ層上面で、南側に遺構覆土を確認した。

遺物は土師器25点215.8ｇ、礫１点2.0ｇ、縄文土器２点34.5ｇ、鉄製品１点2.6ｇ、陶器１点5.2ｇで、いずれも小破片で、図化できた遺物は無い。

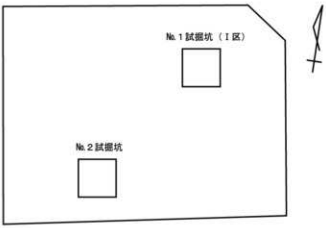
（２）本格調査（第４図）

試掘調査の結果から、建物の地盤改良部分について本格調査を実施した。排土の仮置場を確保しながら調査を進め、№１試掘坑は本格調査のⅠ区（２m×２m）とし、№２試掘坑は調査範囲を５m×５mに拡大Ⅱ区とし、Ⅲ区（１m×3.5m）、Ⅳ区（２m×5.7m）、Ⅴ区（１m×５m）を設定し、調査面積は合計48.9㎡となった。

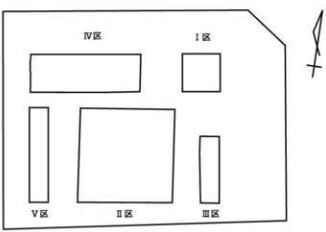
（３）出土品整理

平成26年度中に遺物の洗浄を行い、平成30年度に注記作業、令和元年度に分類、接合、図面整理、報告書作成作業を実施した。このうち遺物の実測、トレース、写真撮影についてはアークフィールドワークシステムに委託した。この他、遺物分類の過程において、土器の穀物等圧痕についてレプリカ法による調査を実施した。

【試掘調査】



【本格調査】



第４図　試掘坑及び本格調査区配置図

土層模式図

Ⅰ層　表土（コンクリート片、礫等混入）

Ⅱ層　黒褐色土　極小の赤色スコリアを５％含む。しまり疎、粘性弱く、やや軟質。
一部欠層する。

Ⅲa 層　黒褐色土　極小の赤色スコリアを３～５％含む。しまりやや疎、粘性標準。Ⅱ区では硬質。

Ⅲb 層　黒褐色土　極小の赤色スコリアを７～１０％含む。しまりやや疎、粘性標準。

Ⅳa層　黒色土　極小～小の赤色スコリアを２～３％含む。しまりやや密、粘性やや強い。
富士黒色土層。

Ⅳb層　黒褐色土　極小～小の赤色スコリアを３％含む。しまりやや密、粘性強く、やや硬質。
富士黒色土層。

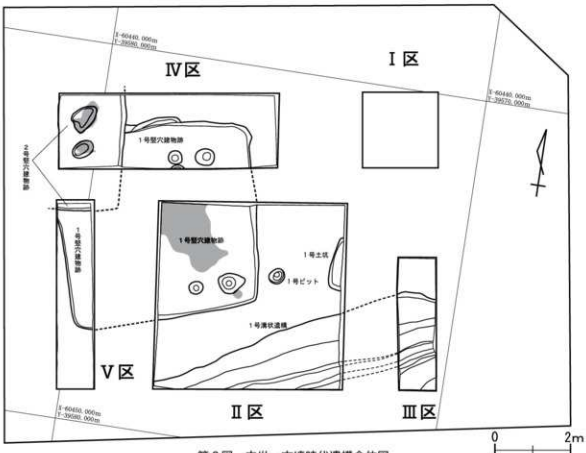
Ⅳc層　黒褐色土　極小～小の赤色スコリアを５％含む。しまり密、粘性非常に強く、硬質。
富士黒色土層。

Ⅳd層　黒褐色土　極小～小の赤色スコリアを１０％含む。しまり密、粘性強く、硬質。富士黒色土層。

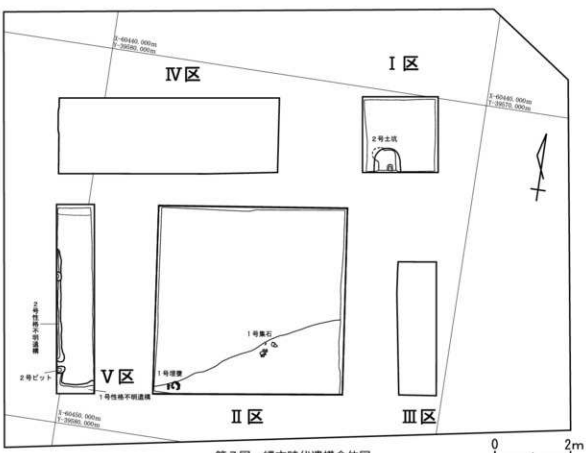
Ⅴ層　暗褐色土　小～中の赤色スコリア２０～２５％、小黒色スコリアを３％含む。しまりやや密、
粘性強く、硬質。ローム層漸移層

Ⅵ層　関東ローム層

第５図　基本土層



第６図　中世～古墳時代遺構全体図



第７図　縄文時代遺構全体図

第２節　基本層序（第５図）

表土（住宅基礎等の攪乱を含む）40～70cm以下に中近世の堆積層とみられるⅡ層が10～20cmある。Ⅱ層は場所により欠層する。黒色スコリアを多く含む古代の黒褐色土層は欠層する。Ⅲ層は２層に分層でき、20～40cmの厚さを持つ。Ⅲ層は古代～古墳時代の堆積層とみられるが、Ⅱ区では硬質であり、あるいは国分寺に関連する整地等の再堆積層の可能性も考えられる。Ⅳ層は富士黒色土層であり70～80cmの厚さがあり、４層に分層される。以下関東ローム層の漸移層（Ⅴ層）、関東ローム層（Ⅵ層）となる（第17図、Ⅰ区土層断面図参照）。

第３節　発見された遺構と遺物

古代から中世とみられる溝１条、古墳時代前期の竪穴建物跡２軒、ピット、土坑各１基、縄文時代の集石、埋甕、土坑、性格不明遺構２基を確認した。

遺構の確認はⅣ層(富士黒色土層)上面で行い、縄文時代の土坑についてはⅤ層で確認を行った。

（１）古代～中世（第６図）

１号溝状遺構（第８、９図、第３表、図版１、５）

Ⅱ区、Ⅲ区で確認されており、概ね東西方向を向く。上幅は確認できた範囲で約2.5m、溝底はローム層を掘り込んでおり、幅約20cmで凹凸がある。２段程度のテラスを持っている。覆土は水分を多く含む粘性土で、意図的に埋め戻されているものとみられる。覆土中からは古墳時代前期の土師器片、縄文土器片等が多く出土しているが、須恵器片等もわずかに含まれており、古代～中世の所産と考えられる。

遺物出土量は土師器253点1952.5ｇ、須恵器１点4.4ｇで、この中から４点図示したが、本遺構の埋土中に混入したものと考えられる。縄文時代の遺物については、（４）遺構外出土遺物において記載する。

１～３は土師器甕。４は土師器高坏か坏か、器種は不明である。

小破片のため図示していないが、このほか外面にイネ種子圧痕がある土師器甕（図版５２－５）が１点ある。

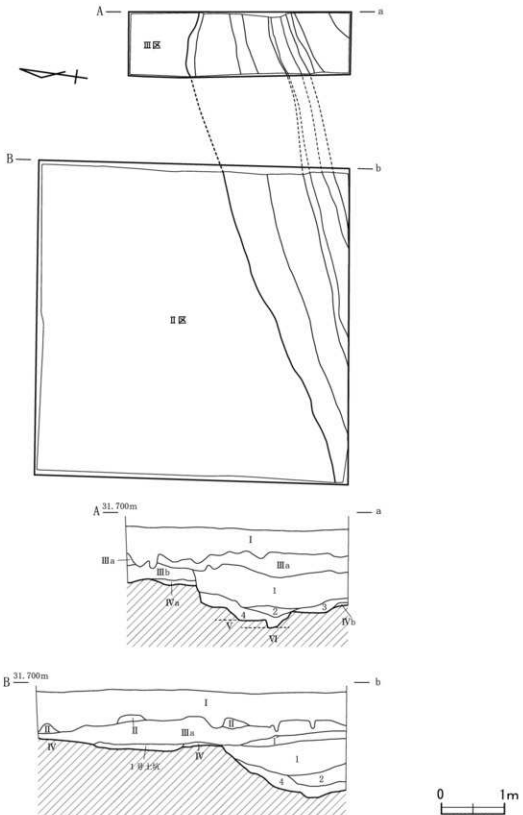
（２）古墳時代（第６図）

１号竪穴建物跡（第10～12図、第４表、図版２～４）

Ⅱ区、Ⅳ区、Ⅴ区で確認されている。5.2×5.2mの方形で、北西コーナー付近は２号竪穴建物跡の重複を受け、一部壊されている。確認面からの深さは20～30cm、床面は貼り床で、床面及び床下から５基(深さ20～55cm）のピットが確認された。覆土中には焼土が含まれ、床面にも焼土が認められた。炉は調査区内では確認できなかった。

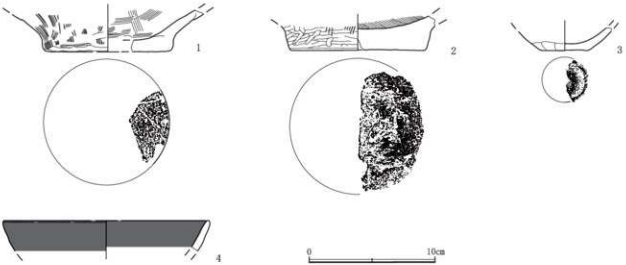
遺物は北東及び南東隅付近を中心に出土し、土師器壺、高坏、小型器台等が出土している。古墳時代前期の所産である。

遺物出土量は土師器493点4639.0ｇ、丸瓦１点18.4ｇ、緑色凝灰岩原石２点94.1ｇで、こ



1層　黒褐色土　極小～小の赤色スコリア３～７%、極小～極大のローム粒子を５%含む。しまりやや疎、粘性強く、やや軟質。水分を多く含む。
1′層　黒褐色土　極小～小の赤色スコリアを７%含む。しまり普通、粘性やや強く、やや軟質。
2層　黒褐色土　極小～小の赤色スコリア３%、極小～小のローム粒子を２～３%含む。しまりやや密、粘性強く、やや硬質。Ⅴ層ブロックを主体とする。
3層　黒褐色土　極小～小の赤色スコリアを３～５%含む。しまり標準、粘性強く、やや硬質。
4層　黒褐色土　極小～小の赤色スコリア３%、極小のローム粒子を３%含む。しまりやや疎、粘性強く、やや軟質。最下層にロームブロック大を含む。

第８図　１号溝状遺構



第９図　１号溝状遺構出土遺物

第３表　１号溝状遺構出土遺物観察表（第９図、図版５）

()内数値は口径・底径が復元径、器高は現存高　単位cm

1	土師器 甕	**法量** 器高(3.3)　底径(10.0)　**現存率** 1/4以下　**調整** 外面：胴部タテハケメ、下端ヨコケズリ　粘土接合痕　底部ナデ　内面：ヨコハケメ　粘土接合痕　**胎土** 粗砂粒・白色粒・雲母　**焼成** 普通　**色調** 外：明褐色　内：にぶい褐色　**出土位置** Ⅲ区SD1　**備考**
2	土師器 甕	**法量** 器高(2.2)　底径(10.8)　**現存率** 1/4以下　**調整** 外面：ハケメ→ミガキ　底部ミガキ　内面：ハケメ　**胎土** 粗砂粒　**焼成** 普通　**色調** 外：にぶい褐色　内：明赤褐色・褐色　**出土位置** Ⅱ区SD1　**備考**
3	土師器 甕	**法量** 器高(1.8)　底径(3.6)　**現存率** 1/4以下　**調整** 外面：胴部ナデ、下端ヨコケズリ　内面：ナデ　**胎土** 粗砂粒・赤色粒　**焼成** 普通　**色調** にぶい黄橙色　**出土位置** Ⅱ区SD1　**備考** 底部中央やや凹む。
4	土師器 高坏？	**法量** 口径(16.4)　器高(2.5)　**現存率** 1/4以下　**調整** 外面：ヨコナデ　赤彩　内面：ヨコナデ　赤彩　**胎土** 粗砂粒少ない　**焼成** 良好　**色調** 明赤褐色(赤彩部分)　**出土位置** Ⅲ区SD1　**備考**

の中から22点図示した。縄文時代の遺物については、（４）遺構外出土遺物において記載する。

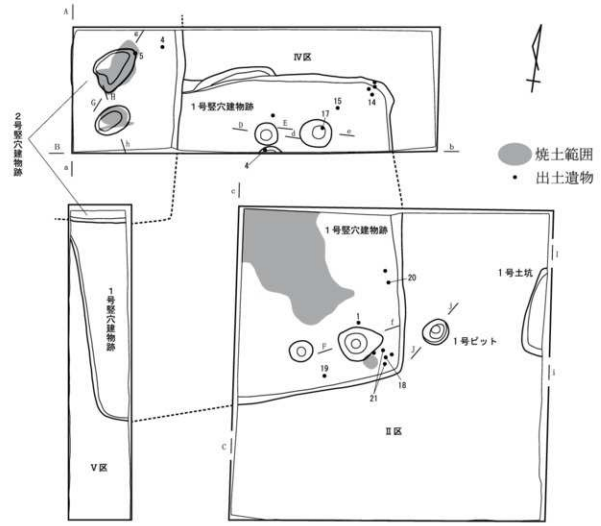
１・２は土師器鉢。３・４は土師器壺。５～12は土師器甕。13は土師器坩。14～17は土師器台付甕。18～20は土師器高坏。21は土師器器台で受け部を壺の口縁部のように段を持たせる。22は緑色凝灰岩で、石材の可能性がある。22の緑色凝灰岩のほかにもう１点同様の緑色凝灰岩の小礫が出土している。

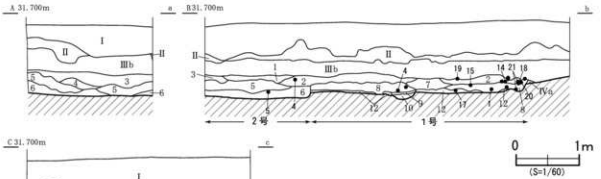
２号竪穴建物跡（第10、11、13図、第５表、図版２、５）

Ⅳ区、Ⅴ区で竪穴建物跡の一部が確認された。調査区内で確認された規模は3.1×1.8m、１号竪穴建物跡の北西隅を壊して作られている。確認面からの深さは30～35cm、床面は貼り床で、床下から浅いピット２基が確認された。焼土を中心とした土で埋め戻されている状況であった。覆土中から土師器片等が出土している。古墳時代前期の所産である。

遺物出土量は土師器84点920.6ｇ、弥生土器の可能性がある土器１点8.6ｇで、この中から５点図示した。

１・２は土師器甕。３は土師器高坏。４は赤彩された土師器坩で、胴部外面にイネ籾圧痕がある。５は土師器壺。





1層　黒褐色土　　極小の赤色スコリア５％、極小～小の焼土２～５％、極小の白色パミスを２～３％含む。しまりやや密、粘性標準、やや硬質。

2層　黒褐色土　　極小～小の赤色スコリア１０～１５％、極小の白色パミスを５％含む。しまりやや緩、粘性標準。硬質。

3層　黒褐色土　　極小～小の赤色スコリア３～５％、極小のローム粒子２～３％、極小の焼土２％、極小の白色パミスを２％含む。しまりやや密、粘性標準、硬質。

4層　黒褐色土　　極小～小の赤色スコリア３～５％、極小～大の焼土２０％、極小の白色パミスを２％含む。しまりやや密、粘性標準、やや硬質。

5層　黒褐色土＋焼色土　　しまりやや密、粘性やや弱く、やや硬質。黒褐色土＋焼土ブロック。焼土主体。

6層　黒褐色土　　極小の赤色スコリア３％、極小の焼土２％、極小の白色パミスを１～２％含む。しまり標準、粘性標準、硬度標準。

7層　黒褐色土　　極小の赤色スコリア５～７％、極小の白色パミスを３～５％含む。しまりやや密、粘性標準、やや硬質。Ⅳ層ブロック少量混入。

8層　黒褐色土　　極小の赤色スコリア７～１０％、極小のローム粒子３％、極小の白色パミスを３％含む。しまり標準、粘性標準、硬質。

9層　黒褐色土　　極小～小の焼土を１５％含む。しまり標準、粘性標準、硬質。

10層　黒褐色土　　極小の赤色スコリア２％、極小の焼土を３％含む。しまり密、粘性弱く、やや硬質。

11層　黒褐色土　　極小の赤色スコリア３～５％、極小の白色パミスを３％含む。しまりやや密、粘性標準、やや硬質。

12層　黒褐色土　　極小の赤色スコリアを２～３％含む。しまり密、粘性やや強く、硬度標準～硬質。

１・３・５層は全体的によくしまっている。５層は焼土とともに複数点が混入。

第10図　１号・２号竪穴建物跡、１号土坑、１号ピット

小破片のため図示していないが、このほか頸部内面にイネ種子圧痕がある土師器甕（図版５　１－６）が１点ある。

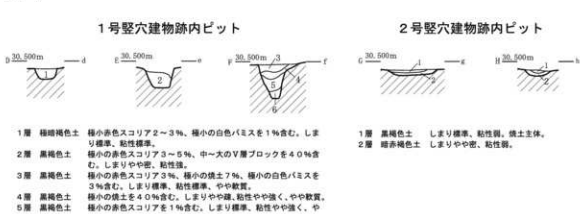
１号土坑（第10、14図、図版３）

Ⅱ区調査区内で遺構の半分程度を調査した。確認された幅は0.3m、長さ1.4mであり、深さは20cm程度である。遺物は出土していない。

１号ピット（第10、14図、図版３）

Ⅱ区で確認されている。45×38cm、深さ75cmである。１号竪穴建物跡に近接しており、一体であった可能性もある。

遺物は少量で、土師器５点21.8ｇが出土している。いずれも小破片で、図化できた遺物は無い。



第11図　１号・２号竪穴建物跡内ピット断面図

第４表　１号竪穴建物跡出土遺物観察表（第12図、図版４）　　()内数値は口径・底径が復元径、器高は現存高　単位cm

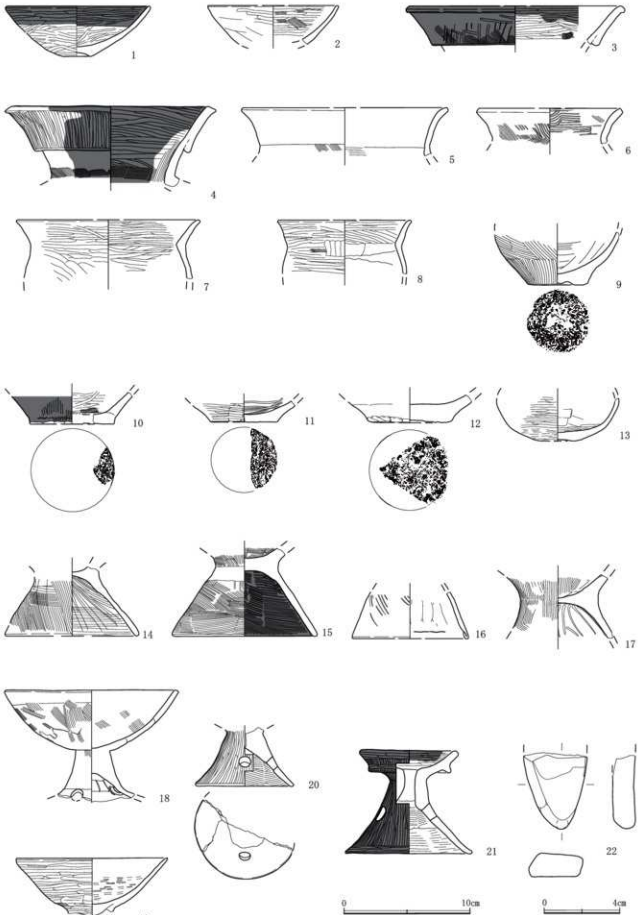
1	土師器鉢	**法量** 口径(11.6)　器高4.0　底径2.1　**現存率** 1/2　**調整** 外面：口縁部ヨコナデ→ヨコミガキ　体部ヨコ・ナナメミガキ、下端ヨコケズリ→ヨコミガキ　口縁部の一部赤彩　内面：口縁部ヨコナデ→ヨコミガキ　体部不規則なミガキ　口縁部～体部中程赤彩　**胎土** 粗砂粒、白色粒　**焼成** 普通　**色調** 外：にぶい黄褐色・黒褐色・明黄褐色(赤彩？)　内：灰褐色・橙色(赤彩部分)　**出土位置** Ⅱ区S11P2、No.10、S11-1床下、Ⅱ区S11-1床下　**備考**
2	土師器鉢	**法量** 口径(12.4)　器高(3.1)　**現存率** 1/4以下　**調整** 外面：口縁部ヨコナデ→ヨコミガキ　内面：ヨコハケメ→ヨコミガキ　**胎土** 粗砂粒　**焼成** 良好　**色調** にぶい橙色・黒褐色　**出土位置** Ⅱ区S11-1床下、Ⅲ区S11-1床下　**備考**
3	土師器壺	**法量** 口径(17.4)　器高(3.1)　**現存率** 1/4以下　**調整** 外面：粗いタテハケメ、細かいナナメハケメ→ヨコミガキ　赤彩　内面：ヨコハケメ→ヨコミガキ　赤彩　**胎土** 粗砂粒少ない　**焼成** 良好　**色調** 外：にぶい橙色・橙色(赤彩部分)　内：灰白色・橙色(赤彩部分)　**出土位置** Ⅱ区S11-1　**備考** 折り返し口縁壺
4	土師器壺	**法量** 口径16.6　器高(6.3)　**現存率** 1/4以下　**調整** 外面：口縁部タテミガキ、一部ナナメミガキ　頸部ナデ、下端タテハケメ　口縁～頸部の一部赤彩　内面：ヨコミガキ一部ナナメミガキ、下端ヨコハケメ　口縁～頸部の一部赤彩　**胎土** 粗砂粒少ない　**焼成** 良好　**色調** 灰白色・明赤褐色(赤彩部分)　**出土位置** Ⅳ区S11No.18　**備考** 折り返し口縁壺
5	土師器甕	**法量** 口径(16.4)　器高(3.8)　**現存率** 1/4以下　**調整** 外面：ナナメハケメ→ヨコナデ　内面：ヨコハケメ→ヨコナデ　**胎土** 粗砂粒・白色粒　**焼成** 普通　**色調** 外：灰黄褐色　内：にぶい黄橙色　**出土位置** Ⅱ区S11-2　**備考**
6	土師器甕	**法量** 口径(11.4)　器高(2.8)　**現存率** 1/4以下　**調整** 外面：ナナメハケメ→上部ヨコナデ　内面：ヨコハケメ→ヨコナデ　**胎土** 粗砂粒・白色粒　**焼成** 普通　**色調** 外：にぶい橙色・灰褐色　内：灰褐色　**出土位置** Ⅱ区S11-1　**備考**
7	土師器甕	**法量** 口径(14.6)　器高(4.7)　**現存率** 1/4以下　**調整** 外面：口縁部ヨコミガキ　頸部～胴部ナナメハケメ→ヨコ・ナナメミガキ　内面：口縁部ヨコミガキ　胴部ナデ→粗いヨコミガキ　**胎土** 粗砂粒　**焼成** 良好　**色調** 外：にぶい黄橙色・にぶい橙色　内：橙色　**出土位置** Ⅱ区S11P2　**備考** 外面の一部に赤彩痕？

8	土師器 甕	**法量** 口径(10.5)　器高(4.3)　**現存率** 1/4以下　**調整** 外面：口縁部～胴部ヨコミガキ、頸部一部タテハケメ・ミガキ　内面：口縁部ヨコミガキ　胴部ヨコヘラナデ　**胎土** 粗砂粒　**焼成** 良好　**色調** 外：にぶい橙色・褐灰色　内：橙色　**出土位置** ⅡKS11P2　**備考** 折り返し口縁
9	土師器 甕	**法量** 器高(2.8)　底径4.7　**現存率** 1/4以下　**調整** 外面：胴部タテ・ナナメハケメ　底部ナデ　内面：ヨコナデ　**胎土** 粗砂粒多い、径1～2mm大砂礫含む　**焼成** 普通　**色調** 外：にぶい黄橙色・灰黄褐色　内：灰黄褐色・橙色　**出土位置** ⅡKS11-1、Ⅱ区表土　**備考** 底部中央付近が窪んでいる。
10	土師器 甕	**法量** 器高(2.5)　底径(6.6)　**現存率** 1/4以下　**調整** 外面：タテハケメ　部分的に赤彩　底部ナデ　内面：ヨコミガキ　胴部と底部の境目付近に赤彩痕？　**胎土** 粗砂粒　**焼成** 普通　**色調** 外：にぶい橙色・にぶい赤褐色(赤彩部分)　内：明赤褐色・褐色　**出土位置** ⅡKS11-1床下　**備考**
11	土師器 甕	**法量** 器高(1.7)　底径(5.2)　**現存率** 1/4以下　**調整** 外面：ヨコミガキ、指頭痕　内面：ヨコミガキ　**胎土** 粗砂粒・白色粒　**焼成** 普通　**色調** 外：にぶい赤褐色　内：橙色　**出土位置** ⅡKS11-1床下　**備考**
12	土師器 甕	**法量** 器高(2.2)　底径(6.4)　**現存率** 1/4以下　**調整** 外面：摩滅不明瞭　内面：ナデ　**胎土** 粗砂粒・白色粒　**焼成** 普通　**色調** 外：橙色・にぶい褐色　内：にぶい黄橙色・灰黄褐色　**出土位置** ⅤKS11　**備考** 二次被熱？
13	土師器 坩	**法量** 器高(3.4)　底径2.6　**現存率** 1/4以下　**調整** 外面：ヨコミガキ　内面：ヨコヘラナデ、ヨコミガキ　**胎土** 粗砂粒、径1～2mm大褐色粒　**焼成** 普通　**色調** 外：灰白色・黒褐色　内：灰白色　**出土位置** ⅡKS11-1、ⅢKS11-1床下　**備考** 底部問き。
14	土師器 台付甕	**法量** 器高(5.5)　底径(10.7)　**現存率** 1/4以下　**調整** 外面：ナナメ指ナデ→ナナメハケメ、一部ヨコハケメ　上端接合部付近ヨコナデ　内面：胴部ヘラナデ、台部渦巻き状にナナメハケメ、下半ヨコナデ　**胎土** 粗砂粒・白色粒　**焼成** 普通　**色調** 外：にぶい橙色・明赤褐色　内：褐灰色・明赤褐色　**出土位置** ⅣKS11№13　**備考**
15	土師器 台付甕	**法量** 器高(7.0)　底径11.5　**現存率** 1/4以下　**調整** 外面：胴部タテハケメ　接合部ヨコナデ　台部上半ナナメハケメ、下半ヨコハケメ→ヨコナデ　内面：胴部渦巻き状にヨコハケメ　台部ヨコ・ナナメハケメ、下半ヨコハケメ→ヨコナデ　赤彩　**胎土** 粗砂粒・白色粒　**焼成** 普通　**色調** 外：にぶい橙色　内：明赤褐色(赤彩)　**出土位置** ⅣKS11№15、確認面　**備考**
16	土師器 台付甕	**法量** 器高(3.7)　底径(9.2)　**現存率** 1/4以下　**調整** 外面：上半ナナメハケメ、下半ヨコナデ　内面：ナデ　下端内側に折り返す　**胎土** 粗砂粒・白色粒　**焼成** 普通　**色調** にぶい橙色　**出土位置** ⅣKS11　**備考**
17	土師器 台付甕	**法量** 器高(5.1)　**現存率** 1/4以下　**調整** 外面：タテハケメ　内面：胴部タテハケメ　台部ヨコヘラナデ　**胎土** 粗砂粒　**焼成** 普通　**色調** 外：橙色　内：にぶい褐色・橙色　**出土位置** ⅣKS11№16　**備考**
18	土師器 高坏	**法量** 口径13.7　器高(8.9)　**現存率** 2/3　**調整** 外面：坏部上部ヨコナデ、下半タテハケメナデ消し　粘土接合痕　脚部ナデ、一部タテハケメ　脚部ヨコナデ　内面：坏部ヨコハケメ　脚部ヨコヘラナデ　裾部ヨコナデ　**胎土** 粗砂粒・白色粒　**焼成** 普通　**色調** 橙色　**出土位置** ⅡKS11№8　**備考** 脚部に径9～12mmの円孔4孔穿つ。円孔は焼成前に外→内に向かって穿孔。坏部内面摩滅激しい。
19	土師器 高坏	**法量** 口径12.0　器高(4.6)　**現存率** 1/3　**調整** 外面：上部ヨコナデ→ヨコミガキ　下半ヨコミガキ、下端一部タテハケメ　内面：ヨコミガキ　**胎土** 粗砂粒少ない　**焼成** 普通　**色調** 灰白色　**出土位置** ⅡKS1-1№3　**備考** 脚部との接合部は凸状に突起している。
20	土師器 高坏	**法量** 器高(4.7)　底径(7.8)　**現存率** 1/4　**調整** 外面：タテミガキ　内面：ヨコハケメ　**胎土** 粗砂粒・白色粒　**焼成** 良好　**色調** 明赤褐色　**出土位置** ⅡKS11№2、S11-1　**備考** 脚部に2孔の円孔あり。円孔は径8mmで焼成前に外→内に向かって穿孔。1孔はごく一部が残存。
21	土師器 器台	**法量** 口径7.8　器高8.25　底径10.1　**現存率** ほぼ完形　**調整** 外面：受け部上部ヨコ、下半ヨコミガキで中央付近ヨコミガキ　脚部タテミガキ　裾部ヨコミガキ　赤彩　内面：受け部ヨコミガキ　脚部ヨコハケメ→下半ヨコナデ　受け部上部赤彩　**胎土** 粗砂粒　**焼成** 良好　**色調** 外：にぶい黄橙色・明赤褐色(赤彩部分)　内：にぶい黄橙色　**出土位置** ⅡKS11№5・7　**備考** 受け部から脚部にかけて円形の貫通孔、脚部に3孔径10～12mmの円孔が穿たれ、円孔は焼成前に外野→内、貫通孔は受け部→脚部に向って穿たれている。脚部の円孔は等間隔。
22	石材？	**寸法** 長さ(4.05)　幅(3.3)　厚さ1.2　**現存率** 1/2？　**重量** 19.1？　**石材** グリーンタフ　**出土位置** ⅣKS11　**備考** 上端欠損。三角形状。

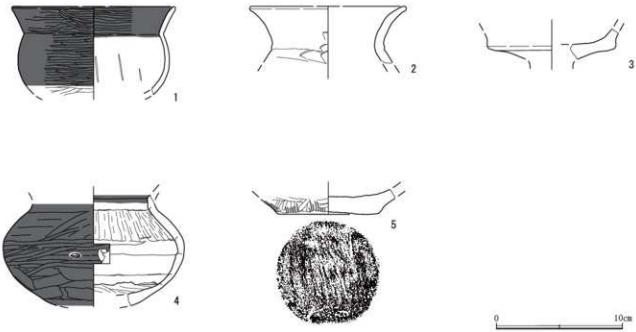
第5表　2号竪穴建物跡出土遺物観察表（第13図、図版5）

（）内数値は口径・底径が復元値、器高は現存高　単位cm

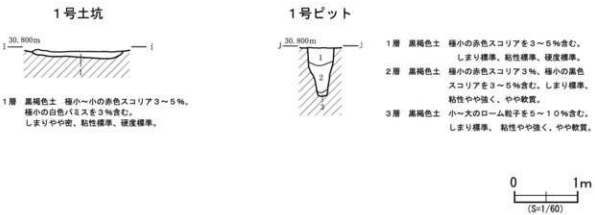
1	土師器 甕	**法量** 口径(13.0)　器高(7.0)　**現存率** 1/4以下　**調整** 外面：口縁部ヨコミガキ、一部ナナメミガキ　体部ヨコミガキ、下部ナナメミガキ　赤彩　内面：口縁部ヨコミガキ　赤彩　体部ヨコヘラナデ　**胎土** 粗砂粒少ない　**焼成** 良好　**色調** 外：明赤褐色(赤彩)　内：浅黄色・明赤褐色(赤彩)　**出土位置** ⅡKS12、確認面　**備考**
2	土師器 甕	**法量** 口径(12.4)　器高(4.5)　**現存率** 1/4以下　**調整** 外面：口縁部ヨコナデ　胴部ヨコヘラナデ　内面：ヨコナデ　**胎土** 粗砂粒・白色粒　**焼成** 普通　**色調** 外：褐灰色・にぶい褐色　内：橙色・にぶい褐色　**出土位置** ⅣKS11・S12　**備考**
3	土師器 高坏	**現存率** 1/4以下　**調整** 摩滅し不明瞭　**胎土** 粗砂粒少ない、やや粉っぽい　**焼成** 普通　**色調** 橙色　**出土位置** ⅣKS12　**備考**
4	土師器 坩	**法量** 器高(8.8)　**現存率** 1/4　**調整** 外面：胴部上部ヨコナデ、中程ヨコミガキ、下部ヨコケズリ　赤彩　内面：口縁部赤彩　胴部上部絞り痕　中程ヨコナデ　粘土接合痕　下部ナデ　**胎土** 粗砂粒　**焼成** 普通　**色調** 外：褐灰色・明赤褐色(赤彩)　内：にぶい褐色・褐灰色　**出土位置** ⅣKS12№19　**備考** 胴部最大径(14.5)cm付近イネ籾の圧痕(籾長さ約7mm)。圧痕脇に穿孔痕？状の割れあり。
5	土師器 壺	**法量** 器高(2.0)　底径8.2　**現存率** 1/4以下　**調整** 外面：胴部タテハケメ→粗いミガキ　底部ミガキ　内面：ヨコナデ　**胎土** 粗砂粒　**焼成** 普通　**色調** 外：明褐色　内：にぶい褐色　**出土位置** ⅣKS12№20　**備考**



第12図　1号竪穴建物跡出土遺物



第13図　２号竪穴建物跡出土遺物



第14図　１号土坑、１号ピット断面図

（３）縄文時代（第７図）

１号集石（第15図、図版３）

Ⅱ区で確認され、１号溝状遺構に大半を壊されているが、60×30cmほどの範囲に礫が９点集積されていた。礫の一部は熱をうけている。礫の下に掘り込みは確認されなかった。

１号埋甕（第16、19図、第６表、図版３、８）

Ⅱ区調査区南西隅で、縄文土器深鉢（第19図-４）が逆位で確認された。一部は１号溝状

遺構により壊されている可能性があり、口縁の一部、底部は欠損している。土器の下に掘り込みは認められなかったが、調査区隅であり竪穴建物の入り口施設等の可能性も考えられる。

埋甕は加曽利E式の深鉢で口縁部から体部1/4程度が残存している。重量は495.6ｇである。縄文時代中期後半の所産とみられる。

２号土坑（第17図、図版３）

Ⅰ区で確認された。南北に主軸をもつ土坑で、調査区内では約半分が確認された。確認された規模は70×60cm、深さ88cm、溝底にくぼみがある。形状から陥し穴とみられる。

１号、２号性格不明遺構（第18、19図、図版３、６）

Ⅴ調査区西側、南側で覆土とみられる土層を確認したが対象区域内でわずかに認められたのみであったため、竪穴建物、溝等の遺構になるか判断できなかった。

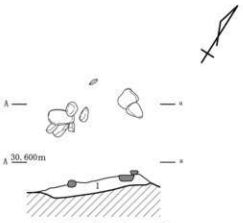
１号性格不明遺構で土師器２点11.7ｇが出土している。いずれも小破片で、図化できた遺物はない。

１号性格不明遺構内２号ピットから縄文土器深鉢片１点60.7ｇが出土しており、第19図-５で図示した。

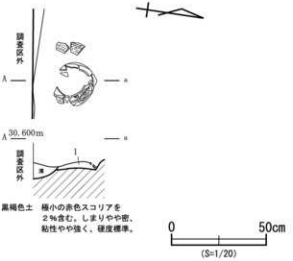
第６表　縄文時代出土遺物観察表（第19図、図版６）

（）内数値は口径・底径が復元径、器高は現存高　単位:cm

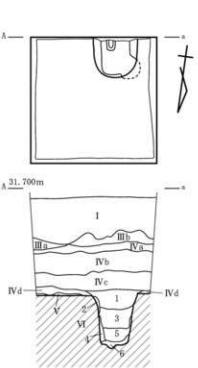
1	縄文土器 浅鉢	**現存率** 1/4以下　**調整** 口縁部に横方向の波状沈線文　**胎土** 粗砂粒　**焼成** 普通　**色調** にぶい黄橙色 **出土位置** ⅡⅠ区S11-1　**備考**
2	縄文土器 浅鉢	**現存率** 1/4以下　**調整** 外面：ナデ、摩滅　内面：ナデ、ミガキ　**胎土** 粗砂粒・白色粒　**焼成** 普通 **色調** 明赤褐色　**出土位置** ⅡⅠ区S11-1　**備考**
3	縄文土器 深鉢	**現存率** 1/4以下　**調整** 平行沈線に縄文を施す　**胎土** 粗砂粒少ない　**焼成** 普通　**色調** 外：にぶい黄褐色　内：にぶい褐色　**出土位置** ⅣⅠ区S11　**備考**
4	縄文土器 深鉢	**法量** 口径18.7　器高(13.6)　**現存率** 1/4　**調整** 口縁部文様帯には渦巻文、隆帯による区画内には縄文を施し、胴部は沈線による区画に縄文を施す　**胎土** 粗砂粒　**焼成** 普通　**色調** 暗褐色　**出土位置** Ⅱ区埋甕　**備考** 加曽利E式期
5	縄文土器 深鉢	**現存率** 1/4以下　**調整** 隆帯による区画内に斜行沈線文　**胎土** 粗砂粒少ない・白色粒　**焼成** 良好　**色調** にぶい褐色　**出土位置** ⅤⅠ区SP-2　**備考** 加曽利E式期
6	縄文土器 深鉢	**現存率** 1/4以下　**調整** タテの沈線による区画内に縄文を施す　**胎土** 粗砂粒・白色粒　**焼成** 普通　**色調** にぶい黄褐色　**出土位置** ⅡⅠ区SD1　**備考** 加曽利E式期
7	縄文土器 深鉢	**現存率** 1/4以下　**調整** 沈線による区画に縄文を施す　**胎土** 粗砂粒・白色粒　**焼成** 普通　**色調** 外：にぶい黄橙色　内：褐灰色　**出土位置** ⅡⅠ区SD1　**備考** 加曽利E式期
8	縄文土器 深鉢	**現存率** 1/4以下　**調整** タテ方向の沈線による区画内にクシ歯状工具で羽状に沈線を施す　**胎土** 粗砂粒　**焼成** 普通　**色調** にぶい黄橙色　**出土位置** ⅡⅠ区SD1　**備考** 加曽利E式期
9	縄文土器 深鉢	**現存率** 1/4以下　**調整** 縄文　**胎土** 粗砂粒少ない・繊維含む　**焼成** 普通　**色調** 外：にぶい黄橙色・灰黄褐色　内：褐灰色　**出土位置** ⅣⅠ区S11-2　**備考**



第15図　1号集石

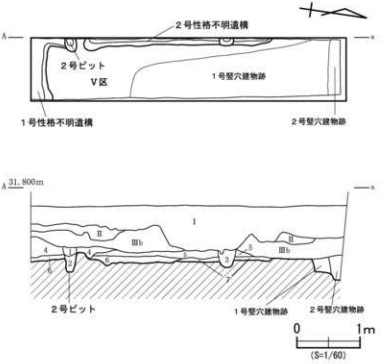


第16図　1号埋甕



1層　黒褐色土　極小～小の赤色スコリアを3～5％含む。しまり密、粘性非常に強く、やや硬質。
2層　極暗褐色土　小赤色スコリア7～10％、小ローム粒子を5％含む。しまりやや密、粘性強く、硬質標準。
3層　黒褐色土　極小～小の赤色スコリアを3％含む。しまりやや密、粘性強く、硬質標準。
4層　黒褐色土　極小～小の赤色スコリア3％、小～中ローム粒子を5～7％含む。しまりやや密、粘性強く、硬質標準。
5層　黒褐色土　極小～小の赤色スコリア3％、極小～小のローム粒子を3％含む。しまり標準、粘性強く、やや軟質。
6層　褐色土　小～大のローム粒子を25％含む。しまり標準、粘性強く、硬質標準。

第17図　2号土坑



1層　極暗褐色土　極小の赤色スコリア2％、極小の白色パミスを1％含む。しまり標準、粘性やや強く、硬質標準。
2層　黒褐色土　極小の赤色スコリアを3～5％含む。しまり標準、粘性やや強く、やや軟質。
3層　黒褐色土　極小の赤色スコリア3～5％、極小のローム粒子2～3％、極小の白色パミスを2～3％含む。しまり標準、粘性やや強く、硬質標準。
4層　黒褐色土　極小の赤色スコリアを3～5％含む。しまりやや緩、粘性やや強く、軟質。
1号溝状遺構覆土土層の可能性あり。
5層　黒褐色土　極小の赤色スコリア3～5％、極小の白色パミスを2％含む。しまりやや密、粘性やや強く、やや硬質。
6層　黒褐色土　極小の赤色スコリアを2％含む。しまりやや密、粘性強く、やや軟質。
7層　黒褐色土　極小～小の赤色スコリア2～3％、極小のローム粒子を1～2％含む。しまり密、粘性やや強く、やや硬質。

第18図　1号・2号性格不明遺構

（4）遺構外出土遺物（第19、20図、第6、7表、図版5、6）

土師器144点1359.7g、平瓦2点（282.3g）、丸瓦2点（170.4g）、縄文土器35点634.1g、黒曜石剥片3点7.2gで、この中から13点図示した。

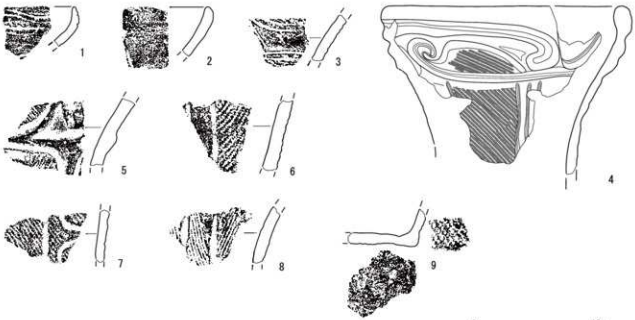
第20図1は土師器壺。2は土師器高坏。3・4は平瓦。5は丸瓦。

第19図1・2は縄文土器浅鉢、3・6～9は縄文土器深鉢。4・5は遺構内遺物。

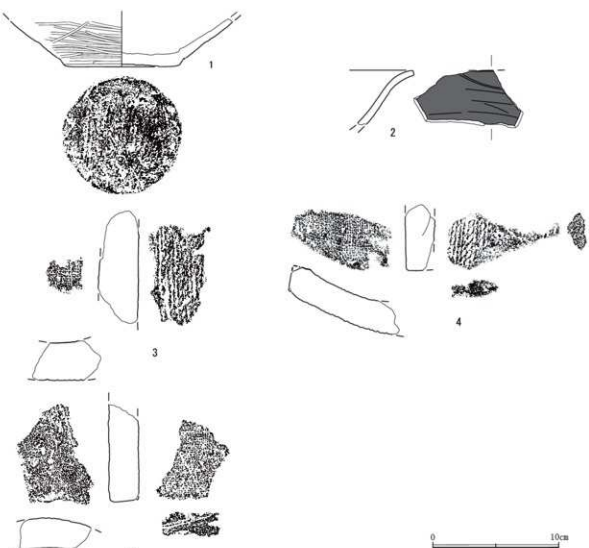
第7表　遺構外出土遺物観察表（第20図、図版5）

（）内数値は口径・底径が復元径、器高は現存高　単位cm

1	土師器 壺	**法量** 器高(3.7)　底径9.2　**現存率** 1/4以下　**調整** 外面：胴部ヨコ・ナナメミガキ　底部木葉痕(カシワ)ナデ消し　内面：摩滅・剥離　**胎土** 粗砂粒・赤色粒　**焼成** 普通　**色調** 外：にぶい黄橙色　内：にぶい橙色　**出土位置** Ⅳ区確認面、サブトレ　**備考**
2	土師器 高坏	**現存率** 1/4以下　**調整** 外面：ヨコナデ　内面：ヨコナデ　**胎土** 粗砂粒・白色粒　**焼成** 普通　**色調** 外：橙色　内：明赤褐色　**出土位置** Ⅳ区確認面　**備考**
3	瓦 平瓦	**現存率** 1/4以下　**調整** 凹面：布目痕　凸面：縄叩き具痕　**胎土** 粗砂粒多い　**焼成** 普通　**色調** にぶい褐灰色　**重量** 154.5g　**出土位置** Ⅳ区確認面　**備考**
4	瓦 平瓦	**現存率** 1/4以下　**調整** 凹面：布目痕　凸面：縄叩き具痕　粘土接合痕　側端・広端：面取り　**胎土** 粗砂粒少ない　**焼成** 普通　**色調** 凹面：灰白色　凸面：褐灰色　**重量** 127.8g　**出土位置** Ⅲ区確認面　**備考** ヨコ粘土紐造り
5	瓦 丸瓦	**現存率** 1/4以下　**調整** 凸面：縄叩き具痕ナデ消し　凹面：布目痕　広端面面取り　**胎土** 粗砂粒多い　**焼成** 普通　**色調** 灰白色　**重量** 136.0g　**出土位置** Ⅳ区確認面　**備考**



第19図　縄文時代出土遺物



第20図　遺構外出土遺物

第４章　自然科学分析

レプリカ法による土器種実圧痕の検討

佐々木由香（明治大学黒耀石研究センター）
山本　華（パレオ・ラボ）

１．はじめに

神奈川県海老名市に所在する国分宿遺跡は、古墳時代から古代を中心とした遺跡である。遺跡では、表面もしくは断面に種実の圧痕と思われる痕跡を有する縄文時代の土器や、古墳時代の土師器が確認された。ここでは、第25次調査で出土した土器を対象にしてレプリカ法による種実圧痕の検討を行った。

２．試料と方法

試料は、市教委によって抽出された土器片10点である。

まず、土器の外面と内面、断面を肉眼と実体顕微鏡で観察したうえで、大きさや形から種実圧痕の可能性があると判断した圧痕を抽出した。次に、レプリカが採取可能と判断した圧痕のみ、丑野・田川（1991）等を参考に、以下の手順で圧痕のレプリカを作製した。最初に圧痕内を水で洗い、付着物を除去した。次に、土器の保護のため、パラロイドB72の９％アセトン溶液を離型剤として圧痕内および周辺に塗布した後、シリコン樹脂（JMシリコン インジェクションタイプ）を注射器に入れて圧痕部分に充填し、レプリカを作製した。その後、圧痕内および周辺の離型剤はアセトンを用いて除去した。

作製したレプリカは、実体顕微鏡下で観察し、同定の根拠となる部位が残っているレプリカを同定した。種実と判断した圧痕レプリカについては、走査型電子顕微鏡（KEYENCE社製超深度マルチアングルレンズVHX-D500/D510）で撮影と計測を行った。なお、圧痕には圧痕No.（KBS-No.）を付した。

土器は、市教委、圧痕レプリカは明治大学黒耀石研究センターに保管されている。

３．結果

植物の可能性のある圧痕５点のレプリカを作製し、２破片から各１点の種実圧痕が確認された。同定の結果、２号竪穴建物跡と1号溝状遺構から出土し、確認された圧痕は２点とも草本植物のイネ種子（頴果）と同定された（第８表）。また、２号竪穴建物跡から出土した坩は表面が脆くレプリカを作製できなかったが、圧痕を観察したところ、イネ籾に同定された。

第８表　国分宿遺跡第25次調査出土土器圧痕の同定結果

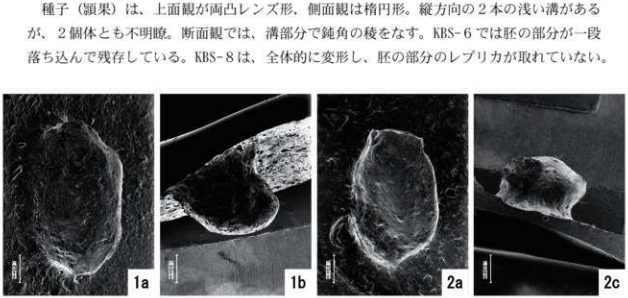
圧痕No.	図版	地区	遺構名	取上No.	土器種類	器種	部位	位置	分類群	部位	時期	備考
KBS-2	5 1-4	Ⅳ区	2号竪穴建物跡	9	土師器	坩	胴部	外面	イネ	籾	古墳時代前期	レプリカ未採取
KBS-6	5 1-6	Ⅳ区	2号竪穴建物跡	一括	土師器	甕	頸部	内面	イネ	種子（頴果）	古墳時代前期	
KBS-8	5 2-5	Ⅱ区	1号溝状遺構	一括	土師器	甕	胴部	外面	イネ	種子（頴果）	古墳時代	

以下では、分類群の記載を行い、写真を示して同定の根拠とする。

(1) イネ　*Oryza sativa* L.　籾・種子（頴果）　イネ科

籾は、上面観が楕円形で、側面観は長楕円形。２条の稜があり、表面には四角形の網目状の隆線と隆線上の顆粒状突起が規則正しくならぶ。

種子（頴果）は、上面観が両凸レンズ形、側面観は楕円形。縦方向の２本の浅い溝があるが、２個体とも不明瞭。断面観では、溝部分で鈍角の稜をなす。KBS-６では胚の部分が一段落ち込んで残存している。KBS-８は、全体的に変形し、胚の部分のレプリカが取れていない。



国分宿遺跡 25 次調査出土時圧痕レプリカの走査型電子顕微鏡写真

１．イネ種子（頴果、KBS-６）、２．イネ種子（頴果、KBS-８）
a：側面観、b：上面観、c：下面観

４．考察

古墳時代の甕外面と古墳時代前期の甕内面に確認できた圧痕のレプリカは、それぞれイネの種子（頴果、いわゆるコメ）と同定された。また、レプリカは採取できなかったが、古墳時代前期の坩の外面にイネ籾が同定された。イネ籾とイネ種子（頴果）が認められた点から、籾摺り前後のイネが利用あるいは保管される過程で土師器作りの場やその周辺に存在した可能性が示された。

関東地方におけるイネ圧痕の検出例としては、神奈川県上村遺跡の弥生時代前期の土器や、群馬県中野谷原遺跡の弥生時代中期前半の土器（設楽・高瀬，2014）、神奈川県河原口坊中遺跡の弥生時代中期～後期の土器（佐々木・米田，2014；佐々木・米田，2015）、神奈川県池子遺跡の弥生時代中期中葉と宮ノ台式期の土器（遠藤，2018）などがある。

神奈川県内では古墳時代のイネ圧痕の報告例はなく、イネ炭化種子（頴果）では古代の出土例が海老名市跡堀遺跡などで報告されている（石田ほか，2016）。今回のイネ圧痕は、これまで検討されることが少なかった土師器の製作環境を復元する資料としても重要である。

本調査に係る経費は、2019年度～2023年度日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究（A）「第三の発掘－人為化石が開拓する未来の考古資料学の構築」（代表：小畑弘己，課題番号19H00541）の一部を使用した。

引用文献

遠藤英子（2018）池子遺跡出土弥生土器の種子圧痕分析．杉山浩平編「弥生時代食の多角的研究―池子遺跡を科学する―」：89-104，六一書房．
石田糸絵・工藤雄一郎・百原　新（2016）日本の遺跡出土大型植物遺体データベース．植生史研究，24，18-24．
佐々木由香・米田恭子（2014）レプリカ法による土器圧痕の種実同定．かながわ考古学財団編「河原口坊中遺跡第一次調査」：180-186，かながわ考古学財団．
佐々木由香・米田恭子（2015）レプリカ法による土器圧痕の種実同定．かながわ考古学財団編「河原口坊中遺跡第二次調査」：1474-1483，かながわ考古学財団．
設楽博己・高瀬克範（2014）西関東地方における穀物栽培の開始．国立歴史民俗博物館研究報告，185，511-530．
丑野　毅・田川裕美（1991）レプリカ法による土器圧痕の観察．考古学と自然科学，24，13-36．

第５章　まとめ

今回の調査では、古代から中世、古墳時代、縄文時代の遺構、遺物が確認された。本地点は、相模国分寺跡の西側回廊にあたる場所ではあるが、今回の調査では相模国分寺に関連する遺構は確認できず、瓦のほか奈良・平安時代遺物の出土も非常に少なかった。相模国分寺跡西側回廊については、周辺での調査でも確認されておらず、史跡指定地の西側一帯が標高的にも低いことから、削平などにより回廊が残存していない可能性が高い。今回の調査地点における標準土層でも古代から近世の土層堆積は薄い状況であった。しかしながらⅡ区付近ではⅢ層及び１号竪穴建物跡の覆土が硬く締まっており、国分寺関連の造成に伴う整地層であった可能性も考えられる。

古代から中世とした１号溝状遺構については、遺構に伴う遺物が確認されず、明確な年代は判然としなかった。覆土から瓦の出土はなく、溝の方向から国分寺伽藍との関連性はないものと考えられ、国分寺創建以前又は国分寺衰退後の遺構とみられる。

古墳時代については、竪穴建物跡２棟が確認された。２号竪穴建物跡は部分的な調査ではあるが、ともに方形であり、出土した土器から古墳時代前期の範疇でとらえられる。重複の状況から、１号竪穴建物跡→２号竪穴建物跡の新旧関係である。１号竪穴建物跡からは、緑色凝灰岩の小礫が出土しており、近年相模川中流域に広がりが確認されている古墳時代前期の緑色凝灰岩の玉作りとの関連について注目される。出土した土師器にみられる圧痕については、レプリカ法による調査を行ったところ、イネとの所見を得ることができた。本調査区周辺は、相模野台地西側縁辺部にあたり、周辺調査地点でも古墳時代前期から中期の集落が確認されている。相模国分寺跡史跡地下層においては古墳時代前期とみられる溝状遺構も確認されており、周辺一帯には大規模な集落が形成されていた可能性がある。

また、今回の調査では縄文時代の遺構が確認されているが、周辺では相模国分寺跡史跡地南側隣接地で縄文時代前期の住居跡が確認されている（国分寺関連遺跡0-1次調査）。今回の調査成果により、周辺には散漫ながら縄文時代早期、中期の遺構も存在することが確認された。

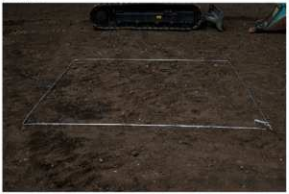
以上、古墳時代を中心に新たな知見、調査成果を得ることができた。

引用・参考文献

1　阿部友寿・井関文明ほか　2009　『中野桜野遺跡』かながわ考古学財団調査報告231（公財）かながわ考古学財団
2　伊東秀吉・合田芳正ほか　1995　『海老名本郷（X）』　富士ゼロックス株式会社　本郷遺跡調査団
3　伊東秀吉・大坪宣雄ほか　1996　『国分尼寺北方遺跡－第７次・第８次調査－』　住宅・都市整備公団・国分尼寺北方遺跡調査団
4　伊東秀吉ほか　1994　『本郷中谷津遺跡埋蔵文化財調査報告書　－第９次調査－』　海老名市　本郷中谷津遺跡調査団
5　江藤　昭・吉田　寿ほか　1989　『本郷中谷津遺跡』　本郷中谷津遺跡調査団
6　海老名市　1998　『海老名市史１資料編　原始・古代』
7　海老名市　2003　『海老名市史６通史編原始・古代』
8　押方みはる　1997　『瓢箪塚古墳－上浜田古墳群第７号墳－発掘調査報告書』　海老名市教育委員会
9　押方みはる　2002　「№217相模国分寺関連遺跡第14次（№53）」『神奈川県埋蔵文化財調査報告 44』神奈川県教育委員会
10 押方みはる・杉山和徳ほか　2017　『上浜田古墳群第２号墳発掘調査報告書』　海老名市教育委員会
11 加藤久美ほか　2014　『河原口坊中遺跡　第１次調査』かながわ考古学財団調査報告304（公財）かながわ考古学財団
12 神奈川県教育委員会　1988　「№187・188　相模国分寺遺跡」『神奈川県埋蔵文化財調査報告30』
13 神奈川県教育委員会　1990　「史跡相模国分寺№1」『神奈川県埋蔵文化財調査報告32』
14 神奈川県教育委員会　2006　「№192相模国分寺関連遺跡（№53）」『神奈川県埋蔵文化財調査報告 49』
15 神奈川県教育委員会　2009　「№234相模国分寺関連遺跡（№53）」『神奈川県埋蔵文化財調査報告 54』
16 久保哲三・後藤喜八郎ほか　1990　『海老名本郷（VI）』　富士ゼロックス株式会社　本郷遺跡調査団
17 小出義治ほか　1985　『海老名本郷（１）』　富士ゼロックス株式会社　本郷遺跡調査団
18 齊藤真一・高橋　香ほか　2011　『社家宇治山遺跡』かながわ考古学財団調査報告264（公財）かながわ考古学財団
19 堺　雅仁編　1991　『本郷池端中谷津遺跡』　本郷池端中谷津遺跡第７次・８次調査団
20 須田　誠　1994　「№282相模国分寺関連遺跡（№53）」『神奈川県埋蔵文化財調査報告36』　神奈川県教育委員会
21 須田　誠　1995　「№294相模国分寺関連遺跡（№53）」『神奈川県埋蔵文化財調査報告37』　神奈川県教育委員会
22 須田　誠　1996　「№278～280相模国分寺関連遺跡（第８～10次調査（№53）」『神奈川県埋蔵文化財調査報告 38』　神奈川県教育委員会
23 須田　誠　1997　「№284相模国分寺関連遺跡（第11次調査）（№53）」『神奈川県埋蔵文化財調査報告 39』　神奈川県教育委員会
24 須田　誠　1997　「№285相模国分寺関連遺跡（第12次調査）（№53）」『神奈川県埋蔵文化財調査報告 39』　神奈川県教育委員会
25 須田　誠　1998　「№349相模国分寺関連遺跡（№１）」『神奈川県埋蔵文化財調査報告40』　神奈川県教育委員会
26 須田　誠　2000　「№216相模国分寺関連遺跡・第11次（№1・53・57）」『神奈川県埋蔵文化財調査報告 42』　神奈川県教育委員会
27 須田　誠・滝澤　亮ほか　1995　『相模国分寺関連遺跡３　－相模国分寺寺域範囲確認調査－』　海老名市教育委員会
28 滝澤　亮・林原利明ほか　1990　『相模国分寺関連遺跡２－僧寺１次・２次調査－』　海老名市教育委員会・相模国分寺遺跡調査会
29 滝澤　亮ほか　1993　『神奈川県海老名市中谷津遺跡－第８次調査－』　本郷中谷津遺跡調査団
30 田村良照　2003　「№248・249相模国分寺関連遺跡第15・16次調査（№1・53）」『神奈川県埋蔵文化財調査報告45』　神奈川県教育委員会
31 日野一郎・渡辺　勲ほか　1992　『相模国分寺』　相模国分寺遺跡調査団
32 服部みはる　1994　「№290相模国分寺関連遺跡（第６次）（№53）」『神奈川県埋蔵文化財調査報告』36　神奈川県教育委員会
33 林原利明　1989　『相模国分寺関連遺跡第１次発掘調査概報』相武考古学研究所

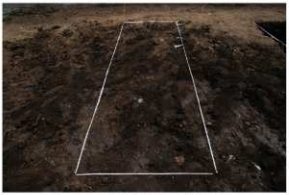
写 真 図 版

図版１



１　№１試掘坑（Ⅰ区）調査前状況（東から）

２　Ⅱ区調査前状況（東から）



３　Ⅲ区調査前状況（北から）

４　Ⅳ区調査前状況（東から）

５　Ⅴ区調査前状況（北から）

６　１号溝状遺構（Ⅲ区　西から）

７　１号溝状遺構（Ⅱ区　東から）

１　１号竪穴建物跡（Ⅳ区　西から）

２　１号竪穴建物跡（Ⅱ区　南から）

３　２号竪穴建物跡（Ⅳ区　東から）

４　１号竪穴建物跡（Ⅴ区　南から）

５　１号・２号竪穴建物跡掘方（Ⅳ区　東から）

図版３

１　１号竪穴建物跡掘方（Ⅱ区　南から）

２　１号土坑（Ⅱ区　西から）

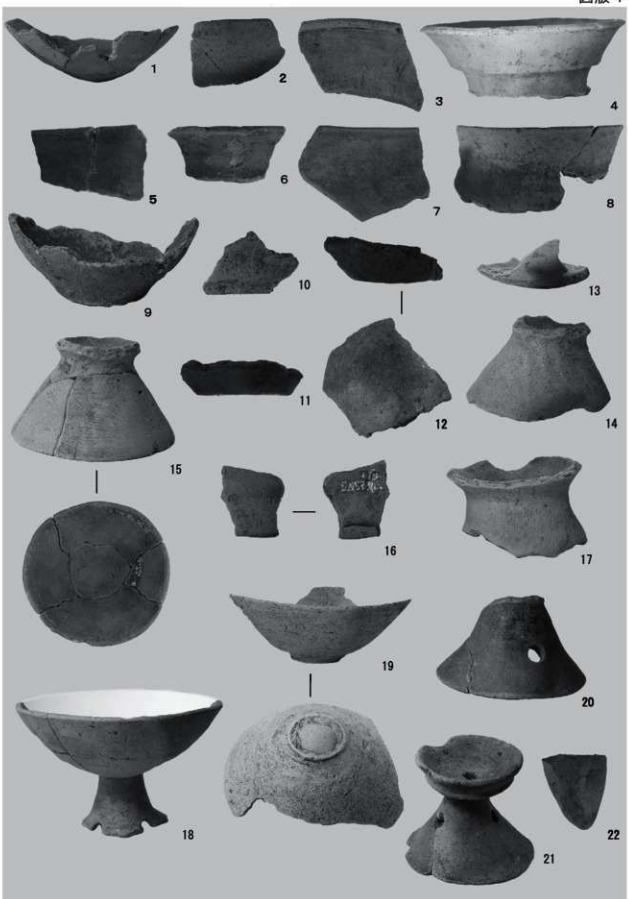
３　１号ピット（Ⅱ区　東から）

４　１号埋甕（Ⅱ区　東から）

５　１号集石（Ⅱ区　東から）

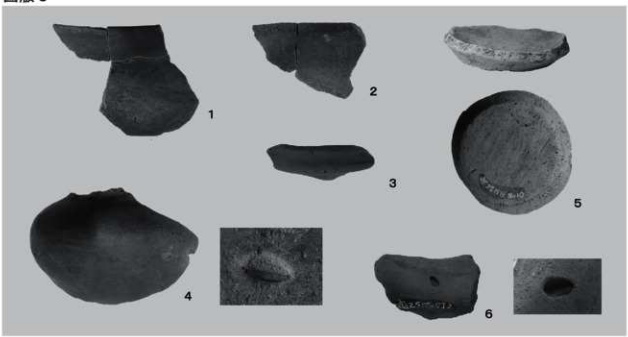
６　２号土坑（Ⅰ区　北から）

７　１号・２号性格不明遺構（Ⅴ区　東から）

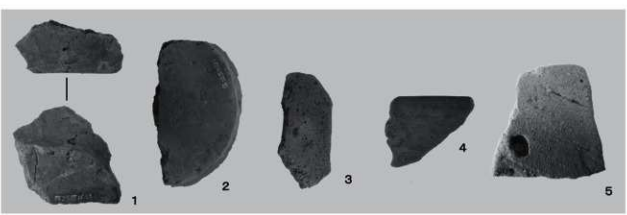


1 号竪穴建物跡出土遺物

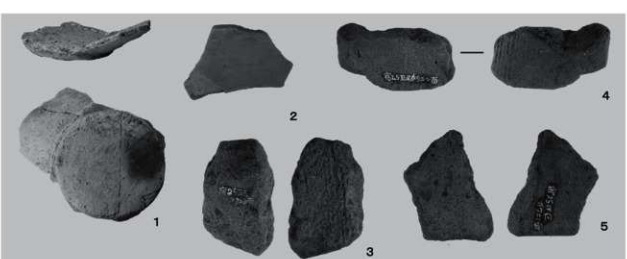
図版５



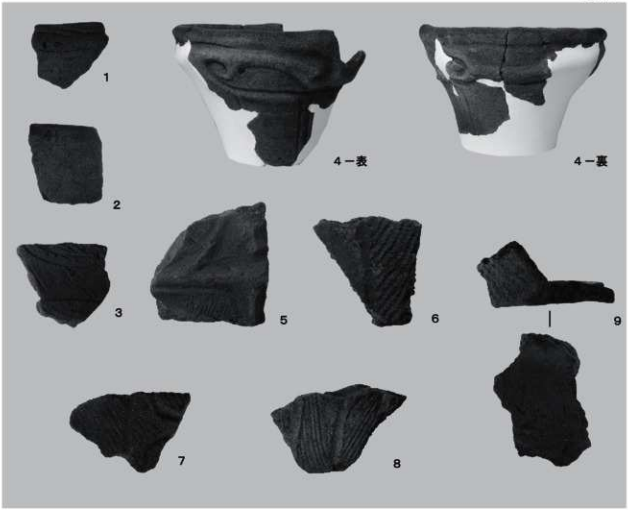
１　２号竪穴建物跡出土遺物



２　１号溝状遺構出土遺物



３　遺構外出土遺物



縄文時代出土遺物

報 告 書 抄 録

ふりがな	こくぶしゅくいせきはっくつちょうさほうこくしょ　－だい25じちょうさ－
書名	国分宿遺跡発掘調査報告書　－第25次調査－
編著者名	今野まりこ，押方みはる，和田山千暁，佐々木由香，山本華
編集機関	海老名市教育委員会
所在地	〒243-0422　神奈川県海老名市中新田377　TEL046-235-4925
発行年月日	2020年３月19日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
国分宿遺跡 第25次調査	神奈川県 海老名市 国分南一丁目 1959-4	14215	1	35° 27′ 16″	139° 23′ 50″	20140716 ～ 20140730	48.9	個人住宅 店舗建築

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
国分宿遺跡 第25次調査	集落跡	縄文・古墳時代～中世	土坑、埋甕、集石、竪穴建物跡、ピット、溝状遺構	土師器、瓦、縄文土器	相模国分寺跡に関連する遺構は確認されなかったが、古墳時代、縄文時代の遺構が確認された。

要約

古代から中世の溝状遺構、古墳時代前期の竪穴建物跡が２棟確認された。竪穴建物跡からは、土師器と伴に緑色凝灰岩の小礫が出土している。史跡相模国分寺跡の下層においても古墳時代の遺構が確認されており、台地縁辺部を中心に古墳時代前期の集落が形成されていたと考えられる。

本調査範囲から、縄文時代の集石及び埋甕が確認され、周辺の状況から縄文時代早期、前期、中期の遺構が散漫ながら存在することが確認された。

・本書は長期保存を考慮し、全て中性紙を使用しています。

【紙質】　表紙　レザック66
見返し
例言・目次・本文・奥付　書籍用紙
扉
写真図版　アート紙

【印刷】　写真図版以外は電算写植によるオフセット印刷
写真図版はカラー印刷、ダブルトーン印刷（主版黒色＋副版グレー）

・文化財保護、教育普及、学術研究を目的とする場合は、著作権者の承諾なくこの報告書の一部を複製して利用できます。なお、利用にあたっては出典を明記してください。

・この報告書に係る記録図面（写真類を含む）は、海老名市教育委員会で保管していますので、利用する場合は連絡の上、必要な手続きをとってください。

国分宿遺跡発掘調査報告書　－第25次調査－

発行日　令和２年３月19日
編　集　海老名市教育委員会
発　行　海老名市教育委員会教育部教育総務課文化財係
神奈川県海老名市中新田377　TEL 046-235-4925
印　刷　株式会社大成企画